



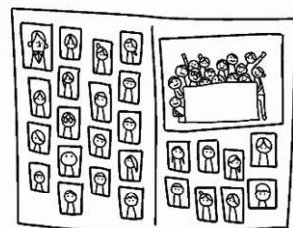
# 大森二中だより

令和4年度 大森二中の合言葉「思いやり」  
スローガン 笑顔満開 いつも心に太陽を！

令和4年度  
第76回卒業式号  
大森第二中学校  
校長 成清敏治  
電話 3762-6456

## 第76回卒業式 式辞

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。中学校3年間、そして義務教育9年間の教育課程をすべて修了しました。手元にある「卒業証書」はその長い道のりの「証」です。いよいよ4月から新しい生活が始まります。今後生きていく上で、良い時もあれば悪い時もあるでしょう。社会の荒波を前に、思うように進まず焦りばかり感じることもあるかと思えます。そうした時に心の原点である「思いやり」をもって過ごした大森二中での楽しい学校生活を思い出してください。愛情いっぱい支えてくれた人々への感謝の気持ちを絶対に忘れないでください。今日は皆さんの門出に、現在大リーグで活躍し、投手と打者の二刀流で野球の価値観を変えた大谷翔平選手の生き方を紹介します。

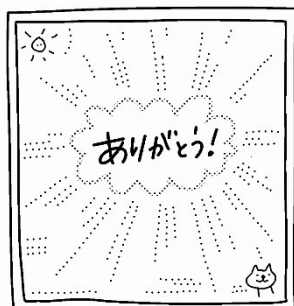


現在行われているWBCの活躍を見ると、順調にここまで来たように思うかもしれませんが、決して順風満帆な野球人生ではありませんでした。太股を肉離れ、成長痛を伴う足の損傷、高校3年最後の夏は、決勝で敗れて甲子園出場は叶わずに終わりました。その高校1年の冬には、東日本大震災に襲われ、チームとしても過酷な経験をしました。ただ、彼は

### 「アクシデントの時こそ、新しい自分と出会うチャンス」

だと捉え、そういった逆境をバネにして、新しい自分へと進化を重ねていきました。共通する人としてフィギアスケートで2大会連続金メダルをとった羽生結弦選手も、東日本大震災の逆境を乗り越えました。

大谷選手はプロ野球の日本ハムに入団した際、二刀流がプロで通用するかどうか、様々な議論がありました。どちらかといえば、否定的な意見が多かったようです。その時も



「出来ないと決めつけるのは嫌でした。ピッチャーが出来ない、バッターが出来ない考えるのも本当は嫌だった。」

という言葉を残しています。二刀流ならではの調整、練習量、メンタルの整え方。目標の種類は違



っても、過去の自分が築き上げた自信が、今の  
大谷選手を作っています。新しいことに挑戦する  
とき、他人はあれこれ批評をするものです。それ  
よりも、まずは自分がどうかを問うべきこと、過  
程（プロセス）が大事なことを教えてくれるエ  
ピソードです。皆さんも周囲の意見に左右されず、  
自分が積み重ねてきた自信をもって、様々なこと  
に挑戦をしていってください。

大谷選手は向上心を「自分を知る」こと捉えて  
います。世の中で1番難しいことだと彼はいいま  
す。

「まずは自分のスタイルで、自分のベストのボールを、どのバッターにも投げる事が出来れば打たれないというふうに考えることが大事」

との言葉は、自分の実力を客観的に評価し、常に前向きに物事を考えている姿勢が想像できます。相手の情報に振り回されすぎて、本来対応すべきことを忘れてしまっただけでは勝負にならない。自分を知って相手を知れば、自ずと対処方法は見えてくると大谷選手は言います。自分と対話することが向上心…自分と闘っているからこそ、魅力あふれる人間性、謙虚な振る舞いが自然と出てくるのだと思います。

大谷選手の野球哲学は、彼の生き方そのものです。

「先入観は可能を不可能にする。自分で無理だと思ったら出来なかった。最初から出来ないと決めつけるのはやめようと思った。」

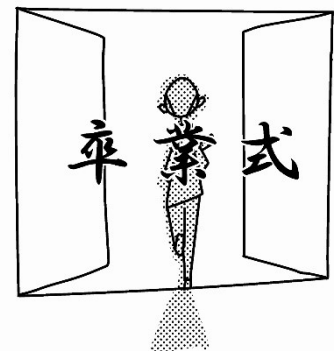
「自分がやりたいと思える練習であれば、努力だとは思わない」

どこまでも進化を続ける彼は、徹底して自分と向き合い、昨日よりは今日の自分を高め続ける存在です。

最後になりますが、皆さんも4月からいよいよ新しい場所での生活が始まります。大谷選手は高校1年生の時に甲子園で優勝することを目標に立てました。その時に発した言葉に感動しました。

「野球の技術だけでなく、私生活、学校生活、周りを思いやる気持ちも含めて、日本一の選手になります」

と。どうか皆さんも新しい生活で何かの分野で目標を高くもち、徹底して自分と向き合う強い自分、しなやかに世の中を生きていく力、自分をどこまでも高め他者と助け合いながら人生を歩んでください。それがみんなの笑顔につながり充実した人生を歩むことにつながります。皆さんの未来が大きく拓けることを確信し、『他人に勝たなくても自分に負けるな』との言葉を贈り、式辞といたします。



令和5年3月17日

大田区立大森第二中学校長

成清 敏治